

大山地域のニホンジカ生息状況の把握と管理対策

(1) 種名 (学名)

ニホンジカ (*Cervus nippon*)

(2) 生態の概要

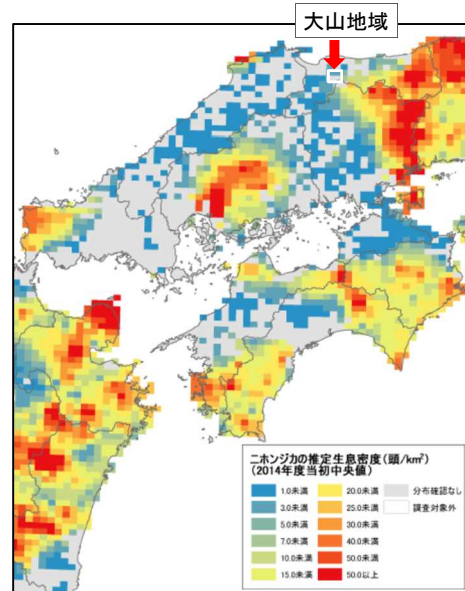
- ・常緑広葉樹林や落葉広葉樹林、草原などに生息する大型草食獣です。
- ・活動は主に薄明薄暮に行われます。
- ・秋(9月下旬から11月)に交尾し、春(5月下旬～)に1頭を出産します。
- ・全国的に生息域、生息数の拡大が問題視されていますが、大山地域は侵入の初期段階と考えられます。



糞塊密度調査で確認された糞

(3) 分布状況の概要

- ・本種の分布域は東南アジアから日本海沿岸にかけて広く分布しています。
- ・中国地方のニホンジカは亜種ホンシュウジカ (*C. n. aplodontus*) です。
- ・中国地方では近畿から岡山県、鳥取県東部に広がる個体群が拡大する過程で国指定大山鳥獣保護区及び大山隠岐国立公園大山蒜山地域(以下「大山鳥獣保護区等」という。)(図中)でも平成27(2015)年(調査開始時)から侵入が確認されています。



(4) 中国四国地方環境事務所の取組

大山鳥獣保護区等においてセンサーカメラ(H27～)や糞塊密度調査(H29～R1)、食痕調査(R2)によるモニタリングを実施しています。センサーカメラでは平成28年からニホンジカが撮影されています。令和元年度の糞塊調査結果(10粒以上1.5/km[※])では、同様の調査を実施している石鎚山系鳥獣保護区(同11.2/km)より生息密度は低く、侵入初期の段階と考えられます。

※10粒以上の糞塊が1.5個/kmあるという意味。

(5) 他機関、NGO等の取組

鳥取県は第二種特定鳥獣管理計画の管理目標を達成するため、県境に接する奥山

地域における捕獲強化を目的として指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画を策定し、計画的にニホンジカの個体群管理に取り組んでいます。

(6) 課題

センサーカメラ、糞塊密度調査結果からニホンジカの侵入は確認されていますが、個体数密度としてはまだ低い状態です。一方で、分布状況の地図にもあるように、鳥取県及び岡山県東部の分布域が拡大するなか、今後、当該地域での定着が進むことが考えられます。そのため、侵入状況や植生への被害状況、希少植物の生育状況等の把握を行い、大山鳥獣保護区等において保全すべき場所へのニホンジカによる被害を防止又は軽減するために取るべき今後の対策やモニタリング手法について整理していくことが必要です。また、必要に応じ、県と連携して当該地域のニホンジカの個体数管理を検討・実施します。

(7) その他

改正鳥獣法に基づく指定管理鳥獣捕獲等事業の推進に向けた全国のニホンジカの密度分布図の作成について（お知らせ）

<http://www.env.go.jp/press/101522.html>